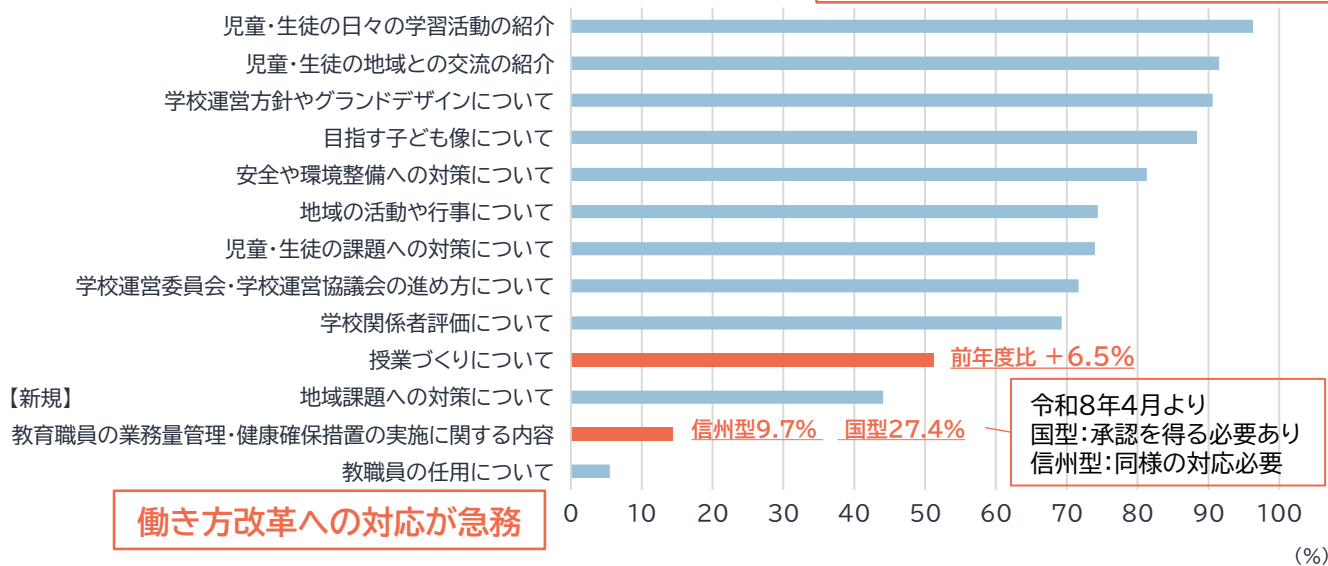


本調査は、地域とともにある学校づくりのさらなる推進に向け、各校におけるコミュニティスクールの取組についておたずねしたものです。

- ・調査期間 令和8年7月～8月
- ・調査対象 公立小・中・義務教育学校 523校
- ・回答数 508校 ※1（回答率97.1%）

学校運営委員会・学校運営協議会の組織や編成について

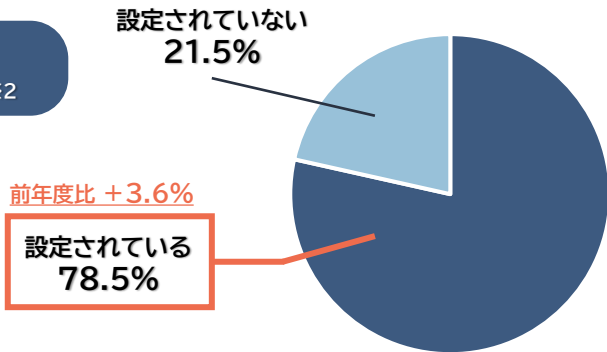
扱われる内容（複数回答）



学校と地域による目標の設定について

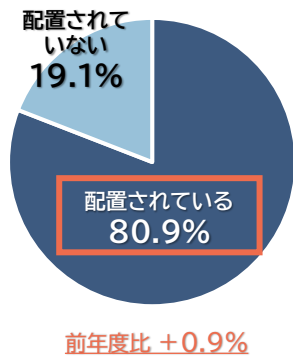
Q.地域と学校の対話により、納得と合意の上で「目指す子ども像」が設定されていますか？ ※2

熟議と目標設定を支える要
Ⅱ
コーディネーター

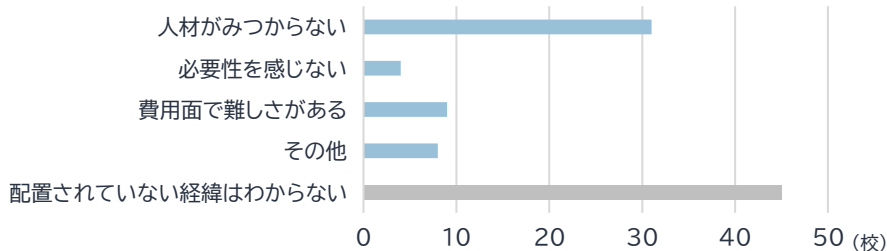


地域コーディネーター※3の配置について

配置の有無



「配置されていない」理由（複数回答）



「その他」理由

- ・運営委員、協議会委員が、コーディネーター役を担っている。
- ・公民館長がコーディネーターを務めている。
- ・地域の方が同様の役割を担ってくれている。 他

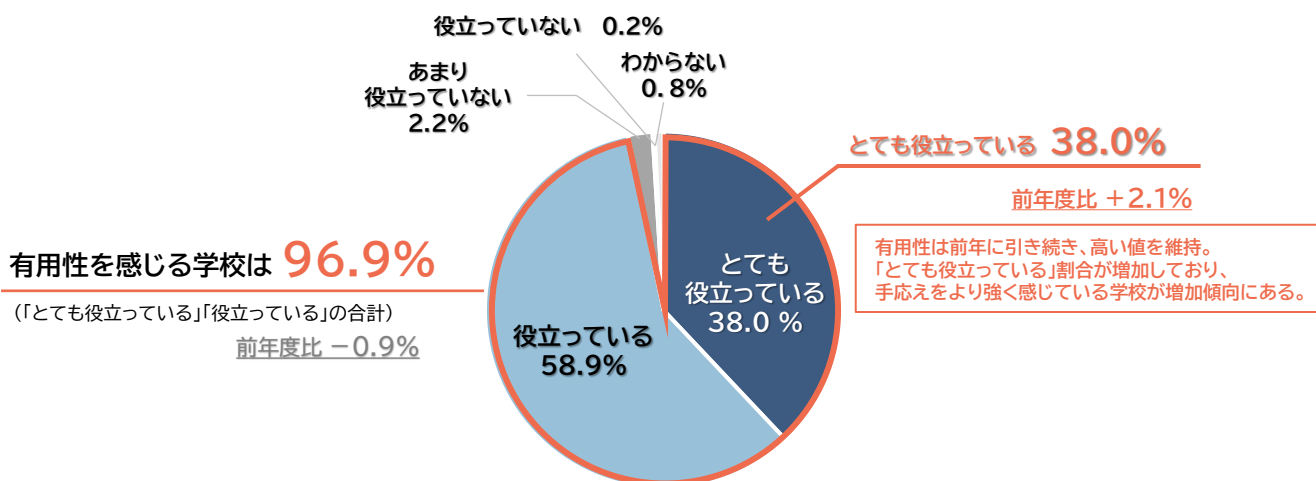
※1 小中学校合同による回答を含む

※2 委員同士で十分な対話が行われているとは言えない場合（例：学校が提案し、対話なく多数決で決定等）は、「設定されていない」を選択

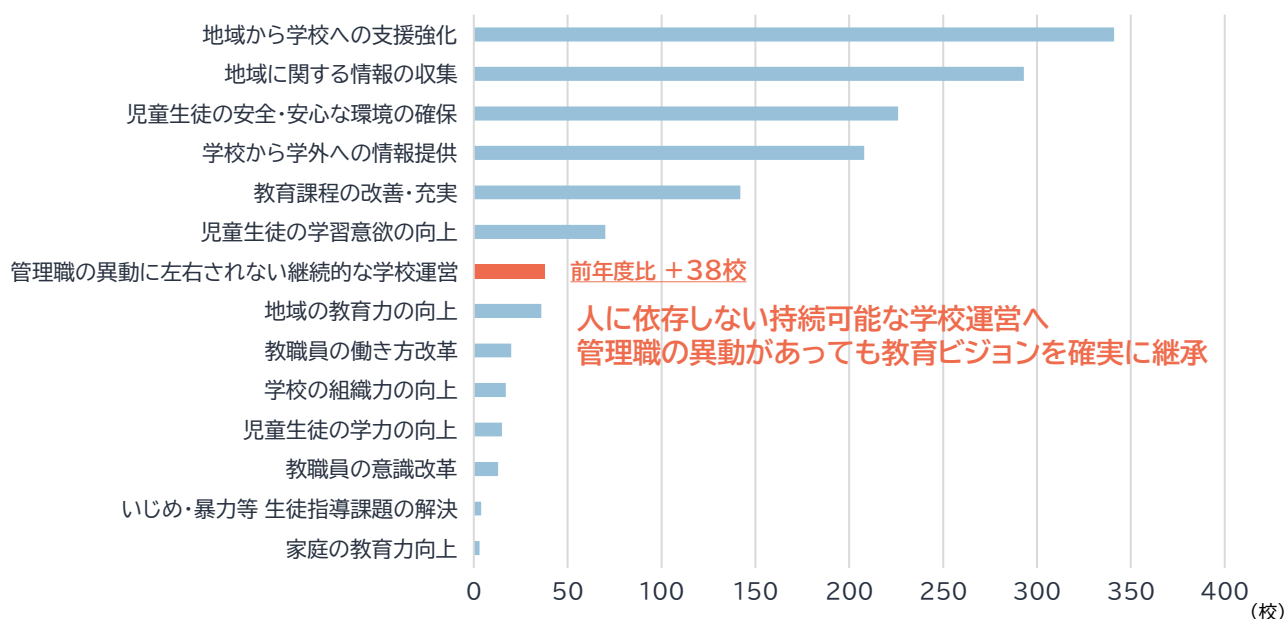
※3 学校職員以外。地域学校協働活動推進員及び都度派遣される場合やエリアでの配置の場合を含む

学校運営委員会・学校運営協議会の有用性について

Q.学校運営委員会・学校運営協議会は、学校運営に役立っていますか？



とても役立っている・役立っていると回答した理由 (上位3つまで選択)

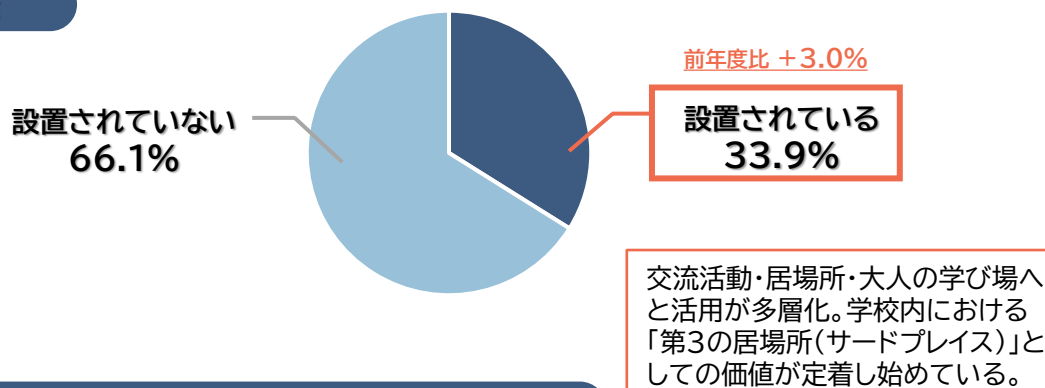


あまり役立っていない・わからないと回答した理由 (抜粋)

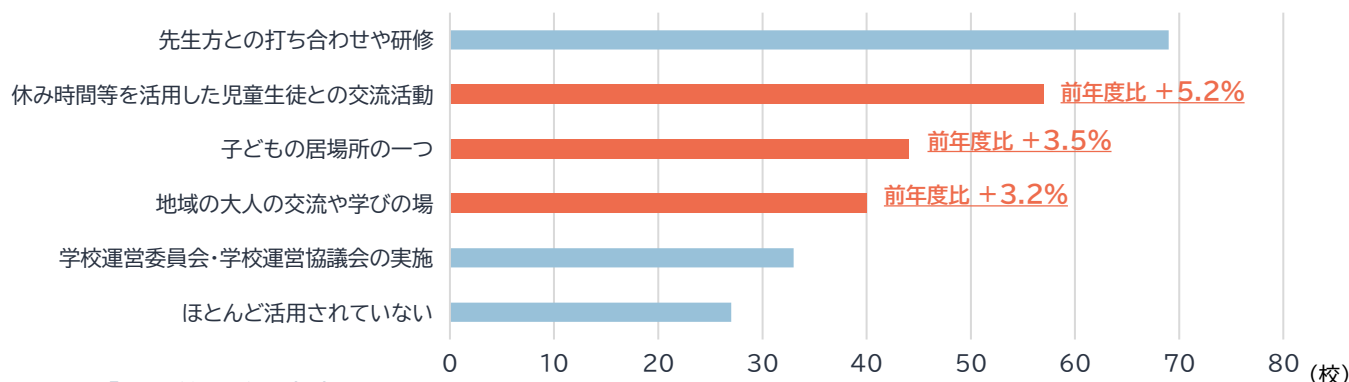
- ・ **学校からの報告や情報提供が中心**で具体論や改善提案まで踏み込めず、承認はいただくものの発言があまりいただけない。
- ・ 学校側が情報や要望を伝えるだけで、授業を協働的に創りだしたり交流活動を活発に生み出せたりしていない。
- ・ 熟議を行ったり意見を出しても具体的な動きや学校運営の改善にどう反映されたのかが見えにくく、効果を実感しにくい状況がある。
- ・ 校内・校外双方で地域と共にある学校という意識が乏しく、**CSが学校のためのボランティアという意識**が抜けきらない。
- ・ 委員が学校の実態を把握しきれておらず認識の相違があったり、なぜ自分が委員なのか分からないまま参加している方がいたり、学校と運営委員会との間に壁を感じる。
- ・ コーディネーターの組織・位置づけが曖昧で負担感があり、活用できていない。また、**構成員の固定化や地域支援者の高齢化**、適切な地域講師の不在といった課題がある。
- ・ これから本格的に組織を再構築して取り組み始めるところなので、まだ実績がない。

コミュニティルーム(ボランティアルーム) ※4 について

設置の有無



コミュニティルーム(ボランティアルーム)の活用内容 (複数回答)

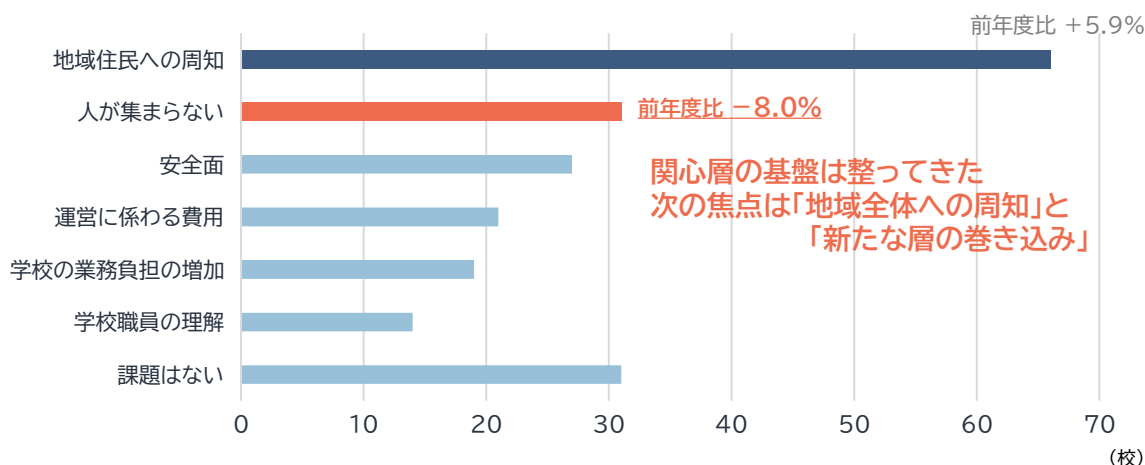


「その他」活用内容

- ・放課後子ども教室をはじめ、児童の学習や指導の拠点として活用している。
- ・イベントチラシの掲示や地域関連資料の閲覧場所として、地域に向けた情報発信・周知を行っている。
- ・地域コーディネーターの事務作業、各種打合せや事務局、物品置き場として活用している。
- ・ベルマーク整理をはじめとするボランティア活動の場として利用されている。

他

コミュニティルーム(ボランティアルーム)の課題 (上位3つまで選択)



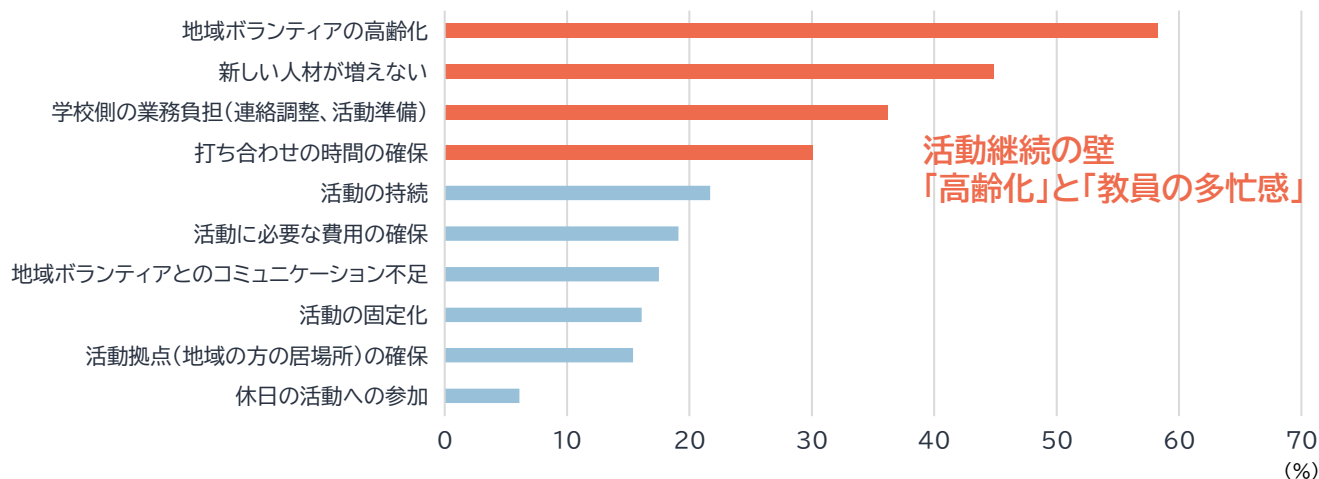
「その他」課題

- ・部屋の狭さや専用部屋の不足、図書館横や2階・離れた教室といった立地による利便性・安全面の不便さ
- ・エアコン(冷房)の未設置に伴う夏季の暑さ対策や、環境整備の不足
- ・中心人物の不在、高齢化と世代交代(新しい参加者の確保)、学校・地域への周知と理解促進
- ・連絡方法の非効率さ(アプリ活用等の必要性)や、参加者の保険・保障の整備

他

※4 名称に関わらず、地域住民や学校ボランティア、関係者等の活動の拠点となる部屋。大きな部屋の一角を仕切る場合も「設置されている」と回答。

地域学校協働活動の課題 (上位3つまで選択)



コミュニティスクールを進める上で工夫していること (抜粋)

○学校運営・組織・体制

- ・グランドデザインに地域連携を明記し、学校・家庭・地域で目指す姿を共有している。
- ・地域連携担当を校務分掌に位置付けるとともに、全職員が協議会や地域の方と語り合う場を設定している。
- ・年度初めにCS委員を全教職員へ紹介し、顔の見える関係づくりを進めている。
- ・小中連携や近隣の高校・大学、保育園等の関係機関との合同研修や会議を実施している。
- ・地域とともに目指す目標を話し合う定期的な懇談の機会を設けている。

グランドデザインへの明記による組織的連携

○地域と学校の日常的な関わり

- ・学校行事や授業参観も案内し、日常の子どもの姿を通して意見交換や学校評価を行っている。
- ・公民館サークルや地域行事への施設開放、地域の方を講師に招いた学習活動を推進している。
- ・地域・教職員・子どもが語り合う場や合同研修会を企画している。
- ・写真付き紹介コーナーの設置やCSルームの活用など、互いに親しみを感じられる居場所づくりを行っている。
- ・地域側からの支援・協働の提案を柔軟に授業へ取り入れている。

○子どもたちの参画

- ・協議会や会合に児童会・生徒会役員が参加し、地域の方と対話や提案を行う機会を設けている。
- ・子どもたちの「やりたい」を実現するため、地域イベントや探究学習に主体的に参画できるようにしている。
- ・地域の運動会や防災訓練等で、大人と子どもが協働して企画・運営に関わる工夫をしている。

○学校運営委員会・学校運営協議会の工夫

- ・委員会では、常にアクションプランに立ち返り、見直しを図るようにしている。
- ・学校運営協議会の場に児童、CS、学校職員が共に語り合う時間を設けている。
- ・授業参観や行事に参加していただいた後に会議を開き、子どもの姿を通して話し合いをする。
- ・年1回は町内の学校と合同で行うことで、互いに刺激され、考えや行動・活動に幅が出ている。

児童生徒の協議会参画を通じた主体的協働

○地域コーディネーターとの連携

- ・地域コーディネーターに定期的(週1回等)に来校いただき、密な情報共有と依頼を行っている。
- ・学習支援、読み聞かせ、見守りなど、ボランティアの特技を生かせる場づくりと調整を行っている。
- ・PTAや多様なボランティア団体と連携し、横断的に学校を支える体制をつくっている。
- ・「無理なくできることを」を原則とし、支援する側の願いも叶えられる持続可能な関わりを心掛けている。

○業務の効率化

- ・連絡調整やボランティア募集に各種アプリを活用し、業務を効率化している。
- ・地域コーディネーターが窓口となり、学校側の連絡・調整をスムーズにしている。
- ・学校だより、ホームページ、回覧板、CS通信等で活動の様子を幅広く発信している。

アプリ活用と事務分離で無理のない体制へ

○その他

- ・「やってあげる」のではなく、子どもが自立できるよう伴走する支援姿勢を共有している。
- ・年度末に感謝の会を開くなど、ボランティアへの謝意を伝える場を大切にしている。
- ・行政や公民館と連携し、事務負担を分散しながら地域ぐるみでの学校運営を進めている。